

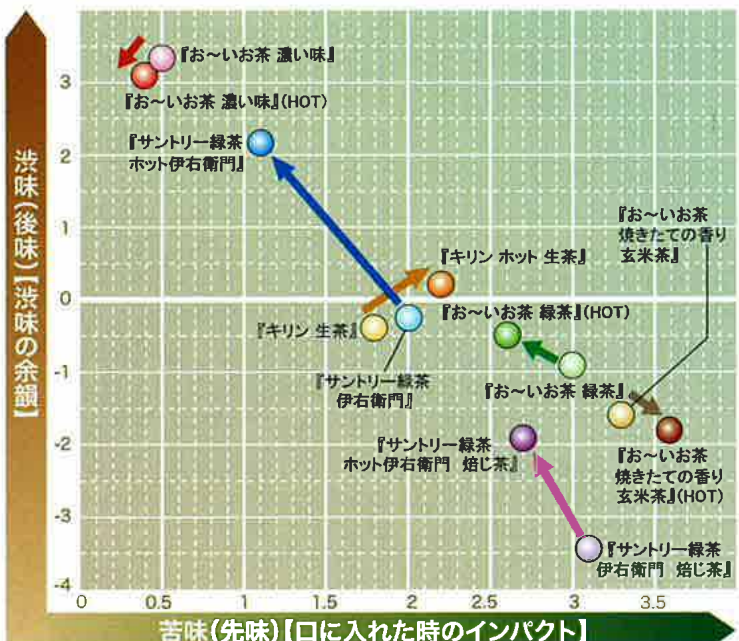
【売れ味、好き味etc. データでわかるヒットのヒミツ】

味の科学ノート

第17回 茶飲料

自分の好きな食べ物・飲み物の「味」を言葉で表現するのは非常に難しいもの。では、それが数値化できるとしたら……。この連載では、「味覚センサー」*などを使って様々な商品を科学的に分析。気になるあの「味」を視覚化します！

ペットボトルのお茶飲料、ホットとコールドで違うのは温度だけ？



2次元グラフは基準サンプル(0)と分析サンプルの味の強弱を数値化し、レーダーチャートは分析数値の最大値と最小値を求め5段階に標準化したデータで表示。レーダーチャートの「すっきり感」は渋味(先味)の逆数を使用。価格は取扱店舗により多少異なる場合がある。

街の自動販売機もホット商品に
入れ替わるこの季節。最近販売さ
れているホット専用とコールド専
用では味は違うのだろうか？ 今
回は茶飲料の味の違いを紹介する。
左の2次元グラフでは、例外は
あるものの、あるひとつの傾向が
見てとれる。それは「ホット専用
のほうが渋味が強い」ということ。
特にその差が大きいのはサントリ
ー「伊右衛門」と「伊右衛門 焙じ
茶」。キリンビバレッジ「生茶」と伊
藤園「お〜いお茶」(HOT)は穏や
かに渋味が増えている。
この理由として推測できるのは、
人の舌は渋味を高温(40℃以上)
では感じにくく、低温(体温以下)
では強く感じるということ。苦味
にも同様の傾向はあるが、多くの
銘柄で渋味の変化が顕著なのは、
苦味まで強めると飲みやすさに影
響が出てしまうからだろう。
レーダーチャートでは主な緑茶
に焦点をあてた。「伊右衛門」の
場合、コールドはすっきり感と苦
味(先味)にアクセントがありさわ
やかなお茶の味わい、ホットは後
味を強めた深いお茶の余韻が楽し
める。「キリン ホット 生茶」は、
すっきり感は保ちつつ、苦味を中
心に後味をやや強めた商品設計。
逆に「お〜いお茶 緑茶」(HOT)
は先味を中心に味の輪郭が抑えら
れている。ホット、コールド両タ
イプに差が少ないのは「お〜いお
茶 濃い味」。コールドでも後味の
苦味と旨味が強く、すでに十分濃
い味わいがあると考えられる。

伊藤園「お〜いお茶 濃い味」		伊藤園「お〜いお茶 緑茶」		キリンビバレッジ「生茶」		サントリー「伊右衛門」	
345ml 136円		345ml 136円		345ml 137円		345ml 137円	
500ml 147円		500ml 147円		500ml 147円		500ml 147円	
<p>レーダーチャートの4シリーズの中では、コールドとホットの差が最も少なかった商品。もともと渋味も旨味も強く、緑茶の濃くて深い味わいがそのままに表現されている。</p>		<p>発売20周年でリニューアルしたシリーズ。すっきり感、渋味と苦味(先味・後味)の強さに違いが見られる。ホットでは渋味を増やし、温かいお茶ならではの味わいが楽しめる。</p>		<p>すっきり感以外はコールドよりもそれぞれ別の軸で強めに仕上げられているホット専用商品。コールドにあるやわらかい味わいの形を変えずにホット用になっている。</p>		<p>ホットは渋味、苦味(後味)、旨味が強く、コールドはすっきり感と苦味(先味)が強い。はっきりとした違いが見られ、熱い/冷たいお茶ならではのおいしさを追求した作りだ。</p>	